

■ その革新的新製品の目指す市場は？

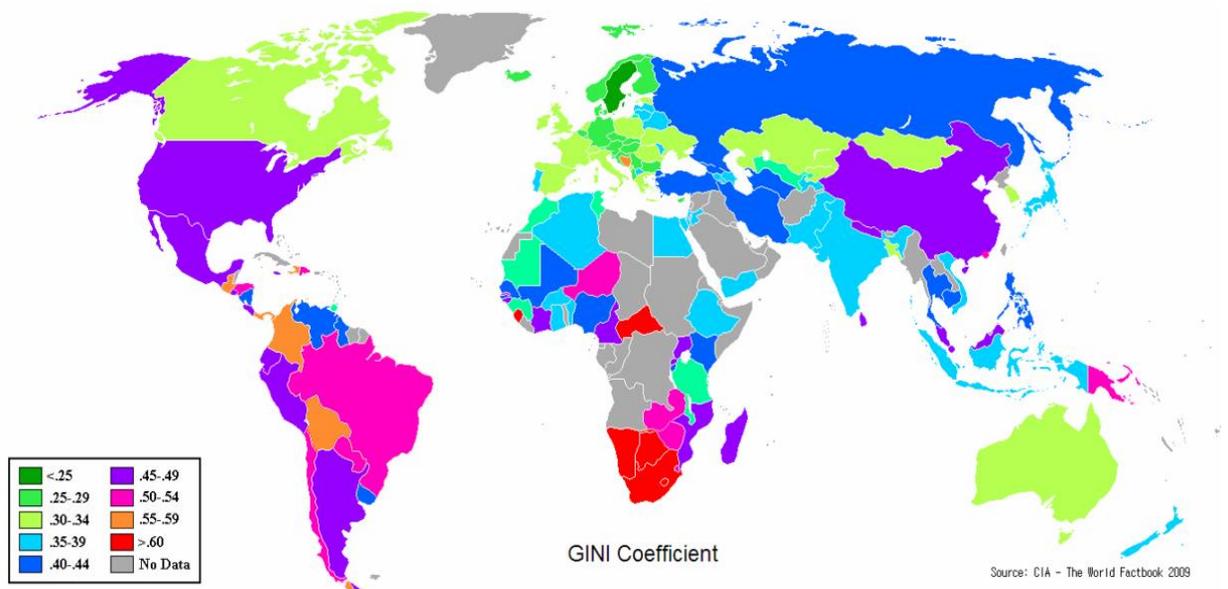
貴社に開発中の革新的な新製品があるとして、「どの国に売りたいですか？」と問われた場合、アメリカと答えられますか、日本ですか。それとも大量販売を期待して人口の多い中国、インドですか。

モノにもよりますが、先端技術を織り込んだ革新的（イノベティブ）な新製品であれば、まず、日米欧の先進国を想定されると思います。そして「欧州は保守的な市場だし、日本はガラパゴスと言われており、購買層の顔が見えない。中国やインドなどの BRIC s の市場はまだ育っていない。やはり、3 億人の人口を抱え、購買力のある進取の国、アメリカだ」とお答えになる方が多いのではないのでしょうか。

しかし、アメリカは図表 1 にある通り、ジニ係数 0.45~0.49 に色分けされる格差社会です。人口の 1% の富裕層が金融資産の約 50% を、富裕層の枠を 5% にすると約 75% を占有する超格差社会です。1% の富裕層と 99% の貧困層に大別する向きもあります。中間層不在の、こうした市場で革新的な新製品を大量に販売するのは難しいのではないのでしょうか。

革新的新製品の市場を BOP (Base Of Pyramid)、新興国市場に求めるのは無理があり、先進国、そこそこの人口、先取かつ流行に敏感な国民性等が必要であり、何よりも健全な分厚い中間層が不可欠と考えられます。

図表 1. 世界各国のジニ係数
- Gini Coefficient World CIA Report 2009



係数の範囲は 0 から 1 で、係数の値が 0 に近いほど格差が少ない状態で、1 に近いほど格差が大きい状態であることを意味する。ちなみに、0 のときには完全な「平等」つまり皆同じ所得を得ている状態を示す。社会騒乱多発の警戒ラインは、0.4 である。 出典：図並びに係数の説明とも、wikipedia ジニ係数

やはり、ガラパゴスと言われても、日本しか無いのではないかと考えています。日本も小泉政権以後、格差社会化が進んだと言われます。しかし、図表 2 を見ると、当初所得では 2008 年のジニ係数は 0.5 を上回っていますが、税金、社会保障を控除し、社会保障給付後の再分配後であれば 0.36 程度に納まって

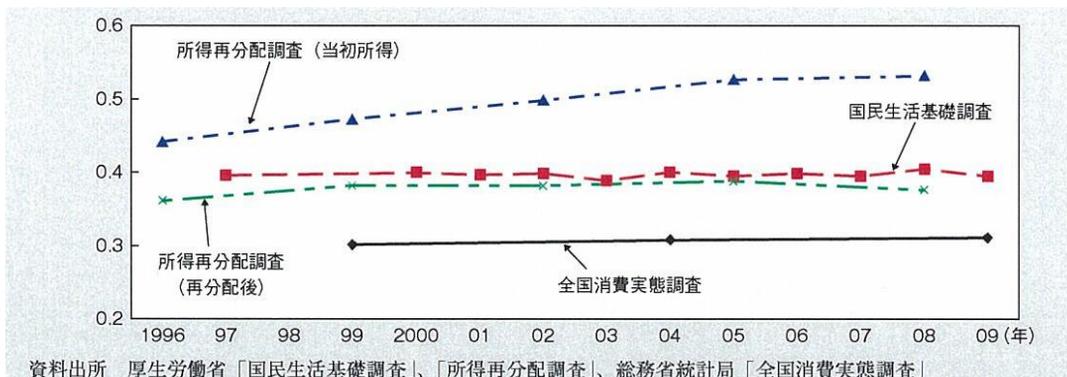
いるように見えます。また、図表 3 の国民の意識調査をみれば、「1 億総中流」の意識感覚が未だ健在となっています。国民の 9 割が中間層の意識を持っています。

ガラパゴスと言われても、革新的新製品市場は日本でしょう。ガラパゴスと言われたのは、新機能の小刻み、小出しで新規性がとぼしかったこと、海外市場のマーケティングが疎かで、思い切りよく戦略的展開できなかったことなどが原因ではないでしょうか。

いみじくも、厚生労働省の『平成 24 年版 労働経済の分析』に、「バブル崩壊後の日本経済は、不良債権問題による金融機関や企業におけるバランスシートの毀損が、実体経済の活動を抑制したことにより低成長が続いた可能性がある。また、その影響が、製造業における国際競争の激化とも相まって、所得環境の長期にわたる悪化につながったと考えられる。すなわち、企業のコスト削減及び弾力化のニーズにより非正規雇用者が増加し、それに伴い格差も拡大したのではないかと。また、こうしたことが、消費の伸び悩みを通じた経済の停滞の要因ともなったのではないだろうか。人口減少社会に突入し、高齢化が進んでいる中、社会を支える層として、『自ら働いて人間らしい生活を営むことができる』分厚い中間層の復活が求められている。」とありました。

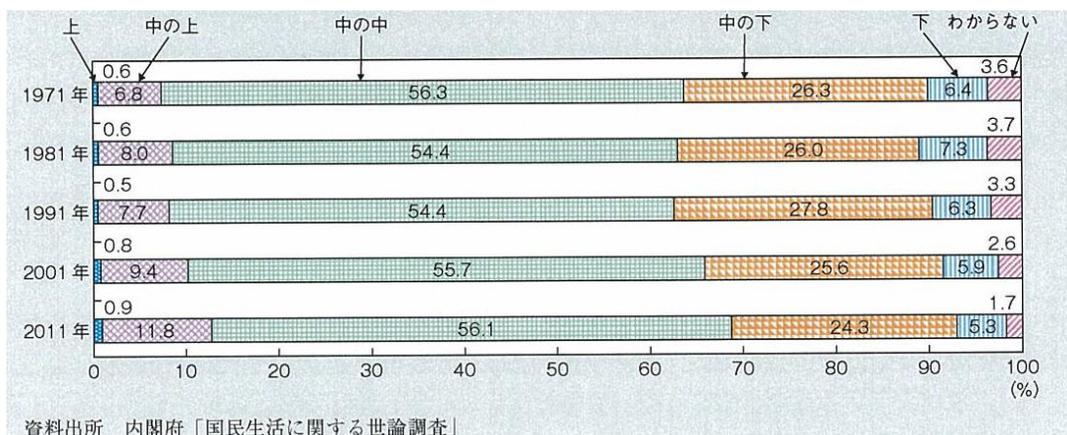
いずれにせよ、我が国が技術立国、知財立国等を目指すのであれば、中間層は大事にしなければならないと考えています。

図表 2. 各種統計によるジニ係数の推移



出典：平成 24 年版 『労働経済の分析』

図表 3. 生活の程度の変遷



出典：平成 24 年版 『労働経済の分析』